

特別支援だより No.20

令和3年9月21日（火）

特別支援教育コーディネーター 松田敦子

6 「やだ！」という背景に何が…



「人間はみなわがまま」だともいえます。その「わがまま」をコントロールするためにあるのが「教育」ともいえます。

「やだ!」というのは、極めて自分を中心においたときに出てくることが多いものです。このほかに、子どもが、すぐに「～してちょうだい」などというのも気になるところです。この声の背景には、先生自身の子どもに対する態度に、これらを許す態度もあるのではないのでしょうか。

また「先生のくせに!」などは、約束したことができなかった、何か引け目を感じている、自信がないなどの先生の消極的な態度や原因が考えられます。

もちろん、本当に子どもが「いやだ」と感じていることがありますから、見極めには、教師の忍意や偏見があつてはいけません。自分の指導に自信をつけるには、やはり日頃の研修、努力、工夫そして信念、情熱など、どれも欠かすことはできません。

さて、「やだ!」の声に負けてしまうと、次には権利主張が強くなってきます。「勉強をするから、休み時間を多くして!」など、「通知表が上がったら〇〇買って」というような交換条件を交わすようなもので、学習本来の楽しさやおもしろさを「損・得」に置き換えてしまうようなものです。

「やだ!」「ずるい!」「～したら」が蔓延するのは、先生に甘え、そのことを許す先生のスキを子どもが見抜いているともいえます。先生は「約束できないことを思いつきだけでするな」ともいえます。

「やだ!」という声が出るための背景を探る...

Q12

家庭科の授業では、 どのような配慮が必要ですか？

自閉症の子どもは、家庭科での実習に困難があることがあります。

自閉症の特性から考えてみましょう

- 教師の指示を聞かず、自己流に活動を始めてしまうことがあります。
- 役割を理解することが難しいために、グループ内で作業を分担できないこともあります。
- 教師の指示や役割分担に従わないことを注意すると、大声を出したりパニックを起こすことがあります。
- 調理や製作が大好きなため、また、こだわりがあるために、特定の作業に固執し夢中になり過ぎてしまうことがあります。
- 指示内容や作業の仕方が分からないために参加できなかったり、ボーッとしていることがあります。(口頭での指示が理解できない、文章を読んで具体的な作業内容がイメージできないといったことが考えられます。)
- 運動機能の困難や力の加減ができないといった問題があるために、調理や製作のための動作そのものができないことがあります。

支援のヒント1 ● 自閉症児への指導例

小学校6年生の知的障害を伴う自閉症の女兒。料理が大好きで、グループで調理をする時は、指示を聞かずに作り始めてしまいます。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① これから行う課題に見通しを持てるように、作業の手順を絵や図、写真(デジカメ利用)にして示し、掲示しておく。
- ② 作業手順を具体的に指示する(「野菜を切る」ではなく「にんじんを切る」「タマネギを切る」など)、作業をより細かく区切って子どもが実行できるようにする、教師や介助者が同じ向きで実演して見せる、手を添えて一緒に行うといった配慮をする。
- ③ 役割分担がわからない場合には、作業課程を指示するプリントや器具に本人の写真や名前カードを貼るといった工夫をする。必要ならば、「役割分担」の理解を進めるための指導を、別時間、または折に触れて行う。
- ④ グループ編成の時に、トラブルを起こしやすい児童と一緒にしないようにする。優しく声かけをしたり、できるところを見守ってくれる子どもや、作業を補助してくれる子どもたちと一緒にする。

支援のヒント2 ● 高機能自閉症・アスペルガー症候群の児童への指導例

小学校5年生のアスペルガー症候群の男児。極端な不器用で裁縫の学習等がうまくできず、また、少しでも失敗すると癇癪を起こしたり、時間がかかる作業はいらいらして放棄してしまいます。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ⑤ 微細運動機能の困難がある(簡単に言うと、手先が極端に不器用な)子どもには、大きめで使いやすい道具や教材を選ぶ、本人にできる範囲の課題を用意する、といった配慮をする。
- ⑥ 作業工程を細分化し、一つの工程にかかる時間を本人の集中力に合わせる、工程を簡素化して全体的に短時間で終わるようにする、といった配慮をする。
- ⑦ 道具の使い方や持ち方を指導する際には、子どもと同じ向きです。決められた使い方や持ち方を教えることにこだわらず、本人が動作しやすいやり方を許容することも時には必要。
- ⑧ 作業工程を細かく書いた表(絵入りだとおよい)を作り、できたら順次チェックを入れたりシールを貼るようななどして、見通しが持ちやすくなるように工夫する。
- ⑨ パニックを起こした時は、ひとまずその場から離す。可能ならば、落ち着いた後に本人に事情を聞く、どのようにすれば課題ができるか選択肢を示しながら考えさせる、課題の難易度を下げるなどの指導をする。再度学習に取り組ませる場合には、本人が達成感を感じられるような課題を指示する。